



2023年度 入学始業礼拝式次第

2023年4月16日(日)午後3時

司 式 チャプレン 司祭 眞野 玄範
司 会 教頭 今多 学

○ 聖 歌 348番 (入堂)

○ 聖 語

司式者 主はその聖なる宮にいます

一 同 全地はそのみ前に沈黙せよ

司式者 あなたの若い日にあなたの造り主をおぼえよ

一 同 主は牧者であってわたしは乏しいことがない

司式者 栄光は父と子と聖霊に

一 同 初めのように、今も世々に限りなく アーメン

○詩 篇 34編

司式者 わたしは常に主をたたえ// 絶えず賛美を口にする

一 同 わたしの心は主をたたえ// 貧しい人もそれを聞いて喜ぶ

司式者 心を合わせて主をあがめ// とともにみ名をたたえよう

一 同 わたしが主を求めると、神はこたえられ// すべての恐れから助けてくださった

司式者 神を仰げば人の顔は輝き// 恥を受けることはない

一 同 苦しむ者が主に叫ぶと、神は聞き// 悩みの中から救い出してくださった

司式者 神を畏れる人の周りには、主のみ使いは陣を敷き// 彼らを助け出してくださる

栄光は父と子と聖霊に

一 同 初めのように、今も世々に限りなく アーメン

○ 主の祈り 天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

○聖 書 コロサイの信徒への手紙 3章 12～17節 (H3-1 玉越 麟之介)

あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。また、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい。キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。

- 校歌斉唱
- 式 辞
- 新入生歓迎
- 新任教員紹介

立教英国学院校長 岡野 透

○ 立教英国学院特祷

真理と愛の源であり、すべての人の造り主、万民の父である全能の神よ。わたしたちが常に正しい理想(ねがい)を失うことなく、知恵と一致を得るのは、ただあなたの恵みにほかありません。どうか、み名によって建てられた立教英国学院を見守り、その全ての行いを祝福し、導きのみ手を差しのべ、ますます学院の徳を確かなものとし、常に変わることのない、主の栄光を輝かすことができますように。また、教える者と学ぶ者とを祝福し、共に知識を深め、主の真理と愛とを悟らせ、常に謙遜の心を抱いて、唯一の父である主を仰ぎ、互いにいたり、互いに励まし合うことが出来ますように。み子、わたしたちの救い主イエス・キリストによってお願いいたします。

○ 祈祷・祝祷

○ 聖 歌 282番 (退 堂)

【今週の誕生日】

4月17日 M1 近内 栞理

4月22日 M2 齋藤 美桜

4月22日 H3-2 小池 優奈



- 1 栄光の主なる主 み光を衣とし
広き空に照りわたり とこしえまでたたえられん
- 2 み空ゆく雲に乗り いなずまを使いとし
海 山をもとどろかせ その力をあらわせり
- 3 はかりなき賜物を 地に満たす造り主
世の基をかたくすえ 海の水をめぐらしむ
- 4 野に山に 谷にまで 照りさす日 いぶく風
田をうるおす雨露も その恵みを世にしめす
- 5 み恵みのあがないに 救われし主の民は
み使いらと声あわせ とこしえまで ほめ歌わん

立教英国学院 校歌

縣 康 作詩
波多野春子 作曲

校 歌 作詞 縣 康

Con brio ♩ = 112-126

1. し の の め さ ゐ る お か ら の う え 春 の 光 の み つ る と き
2. マ ロ ニ エ 並 木 落 葉 し て 梢 に 高 き 北 斗 星
3. こ こ 南 英 の 学 び 舎 に 愛 の 訓 え の 帯 を し め
4. 世 界 の 平 和 成 ら ん と き 栄 光 と わ に あ れ か し と
と も に た た え ん わ が 母 校 立 教 英 国 学 院 を

1. 東雲さむる丘の上 春の光のみつるとき
信もて集う若人が 呼ぶや希望と愛のうた
2. マロニエ並木落葉して 梢に高き北斗星
真理の門を叩けやと ささやく如くまたたきぬ
3. ここ南英の学び舎に 愛の訓えの帯をしめ
もろ国人を友として 行くべき道を究めなん
4. 世界の平和成らんとし 栄光とわにあれかしと
ともにたたえんわが母校 立教英国学院を

1.詩篇57及び108 2.Pallinghurst Hillというこの地名 3.信仰と希望と愛と(コリント前十三章) 4.門を叩けさらば開かれん(マタイ傳七章) 5.第三節は国際人を目指すために。6.愛は徳を全うする帯(コロサイ書三章) 7.地には平和(ルカ傳二章) 幸なるかな平和ならしむる者(マタイ傳五章) 以上の精神をこめて歌詞は作られた。

The following is a translation of the School Song of Rikkyo School in England, each verse rendered in the same 7-5-7-5 syllable pattern as the original Japanese.

- | | |
|---|--|
| 1. Atop our hill, dawn's breaking:
Let us greet the sun
All the world now seems bathed in
The fresh Light of Spring. | Voices young are raised in song,
In truth hearts are one-
Ever seeking faith and hope,
And love, above all. |
| 2. The chestnut trees in a row,
Autumn's falling leaves-
High above the treetops there
The North Star shines bright. | Is it whispering to us now,
Twinkling all the while?
"Knock ye at the Gate of Truth:
Opened it shall be." |
| 3. Here in Southern England stands,
'Midst the hills, our school.
Day by day 'tis girding us
With precepts of love; | And binding us in friendship
With men of all lands-
To search and find together
The way we should go. |
| 4. Then when peace does truly come
To our world at last,
Glory be in the highest
To God forever! | Then too we'll sing praises to
Our Alma Mater.
To Rikkyo School in England
Our hearts will be true. |

By Gene S. Lehman
Rikkyo University

282

入信の式・堅信

1 つみに く る し む さ げ び を き い た
やみの せ か い を て ら し か が や く

わ た し は た み を す く お う
かみの ひ か り を

つ た え よ - あ な た に

- よ ば れ て - わ た し は

あ ゆ み ま す - わ た し を - こ の

Here I am, Lord
Daniel L. Schutte

HERE I AM, LORD
Daniel L. Schutte
arr. John Ryuta Suzuki (1959)

世 に - つ か わ し て く だ さ い -

- 1 罪に苦しむ 叫びを聞いた
わたしは民を救おう
闇の世界を 照らし輝く
神の光を伝えよ

(おりかえし)

あなたに呼ばれて わたしは歩みます
わたしをこの世に 遣わしてください

- 2 民の痛みに 涙を流し
わたしは語り続ける
石の心を 愛でうるおす
神の言葉を伝えよ

(おりかえし)

- 3 貧しい人を わたしは見つめ
祝いの席に招こう
すべてを満たす 尊いパンで
神の命を与えよ

(おりかえし)

出3:7-10 イザ6:8 エゼ36:26 イザ11:2-3 イザ25:6